

生ごみ処理容器購入費助成制度利用者に対するアンケート結果について

平成30年4月

資源循環推進課

今後の生ごみ処理容器の普及及び購入助成制度の周知施策の検討に資するため、平成24年度に当該助成制度を利用して生ごみ処理容器を購入した世帯を対象とした、購入の動機と購入後の長期使用状況等に関するアンケートを実施した。

1 調査対象

平成24年度に助成制度を利用し、生ごみ処理容器を購入した世帯（コンポスト化容器65世帯、電動式生ごみ処理機90世帯 合計155世帯）

2 調査時期

平成30年1～2月（回答期限2月28日）

3 調査方法

アンケート用紙に無記名で回答記入の方法による。

（アンケート用紙は郵送により配布し、記入後、返信用封筒にて返送してもらい回収）

4 回答状況

回答件数：104件（配達不能10件）

回答率：71.7%

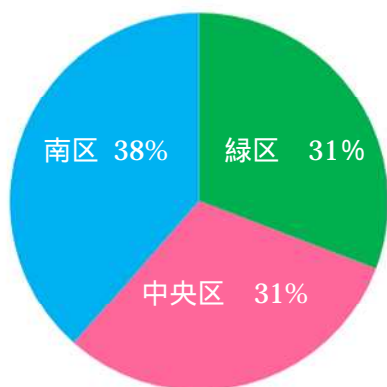
5 調査結果の総括

今回のアンケート結果から、生ごみ処理容器購入助成制度が容器の購入に大きな動機付けとなっていること、また、生ごみ処理容器で処理された物については肥料としての利用が大部分を占め、一般ごみを出す回数の減少にも大きく寄与していることから、本制度がごみの減量と資源化に有効であることがわかった。

制度に対する意見としては、現行制度の継続を求める意見や再度の制度利用の希望がある一方、もっと周知すべきとする意見も多く、今後の周知の強化が必要であることがわかった。実際に使用された際のメリットとして、生ごみの減量や臭気の低減などの意見が寄せられたことから、周知の際にはこれらのメリットをPRすることも重要である。

【問1】あなたのお住まいは何区ですか。

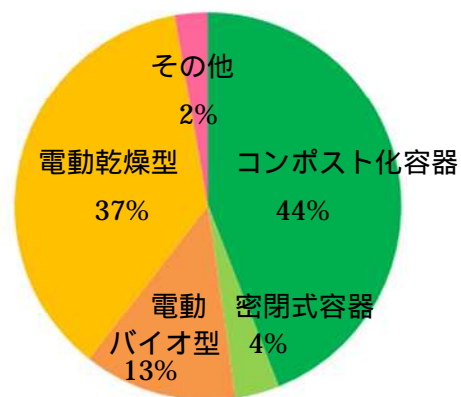
1. 緑区
2. 中央区
3. 南区



購入した世帯の住居は、緑区が31%、中央区が31%、南区が38%となっており、市内3区で偏りなく利用されている。

【問3】購入した生ごみ処理容器のタイプはどれですか。

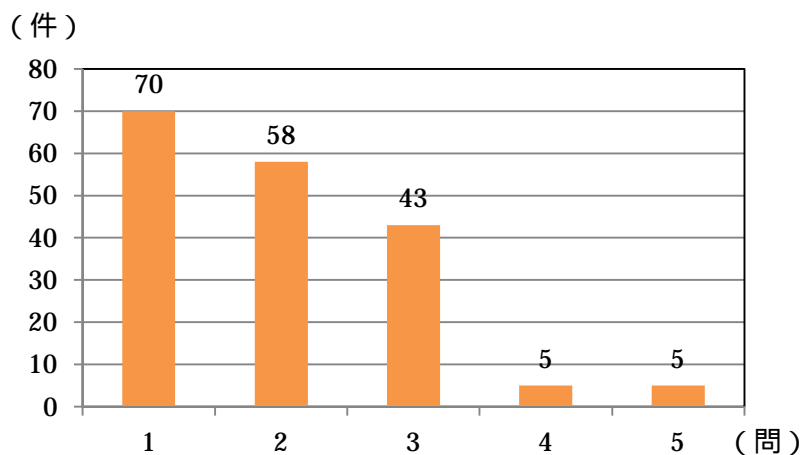
1. コンポスト化容器
2. 密閉式容器
3. 電動式生ごみ処理機（バイオ型）
4. 電動式生ごみ処理機（乾燥型）
5. その他（)



購入したタイプ（機種）では、コンポスト化容器が44%、密閉式容器が4%、電動式（バイオ型）が13%、電動式（乾燥型）が37%となっており、電動式とそれ以外で概ね同じ割合であった。なお、集合住宅でコンポスト化容器を利用している世帯が4%あった。

【問4】購入した主な理由は何ですか。〔複数回答可〕

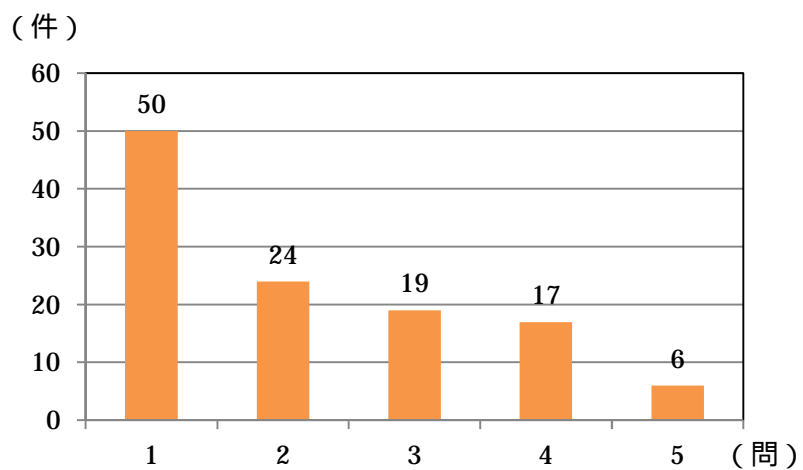
- 1．生ごみを減量するため
- 2．生ごみ堆肥の利用を考えて
- 3．助成制度があることを知ったから
- 4．知人や販売店に勧められて
- 5．その他（ ）



購入理由としては、生ごみの減量が70件、堆肥化が58件、助成制度があるためが43件、知人や販売店の勧めが5件であった。その他では「臭い防止のため」や「ごみ収集日まで置いておきたくない」といった衛生上の理由が挙げられていた。

【問5】助成制度をどこでお知りになりましたか。〔複数回答可〕

1. 広報さがみはら
2. 市のホームページ
3. 販売店等の宣伝
4. 知人から
5. その他（ ）

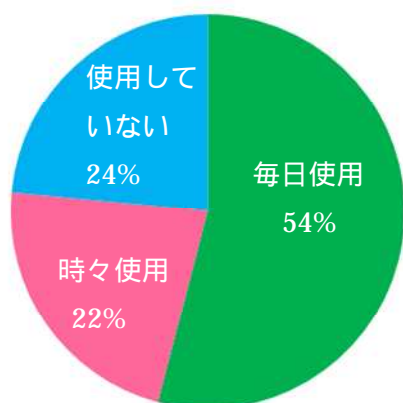


助成制度を知った媒体は、広報さがみはらが50件、市ホームページが24件、販売店等の宣伝が19件、知人が17件であった。その他は「テレビ」や「以前から使用していた」といった回答があった。

【問6】現在、生ごみ処理容器を使用していますか。

1. 毎日使用している
2. 時々使用している（週に 回程度） 使用回数もご記入ください。
3. 使用していない

と回答された方は【問10】にお進みください。



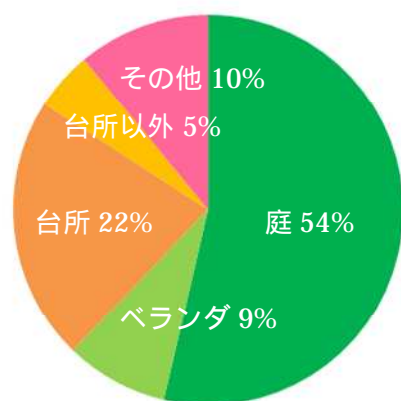
「時々使用」の内訳は、週1回程度が46%、週2回程度が27%、週3回程度が27%

現在の使用状況では、「毎日使用している」が54%、「時々使用している」が22%、「使用していない」が24%であった。「時々使用している」を含めて8割程度の世帯で購入5年後も利用されている。

(【問6】で、と回答された方にお聞きします。)

【問7】設置場所はどこですか。

1. 屋外(庭)に設置
2. 屋外(ベランダ)に設置
3. 屋内(台所)に設置
4. 屋内(台所以外)に設置
5. その他()



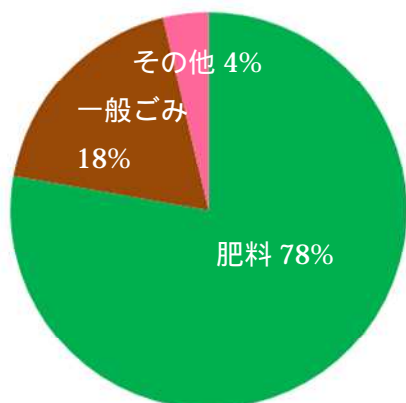
設置場所は、屋外(庭)が54%、屋外(ベランダ)が9%、屋内(台所)が22%、屋内(台所以外)が5%であった。

なお、コンポスト化容器、密閉式容器は屋外設置が98%であった一方、電動式生ごみ処理機(乾燥型、バイオ型)は屋外設置が42%、屋内設置が58%であった。

(【問6】で、と回答された方にお聞きします。)

【問8】生ごみ処理容器で処理された物の利用方法は、主にどうしていますか。

1. 畑や家庭菜園、庭木等の肥料として利用している
2. 一般ごみとして他のごみと一緒に排出している
3. その他()

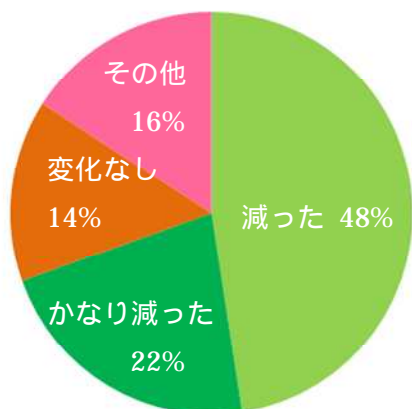


処理された物の利用方法としては、肥料としての利用が78%、一般ごみとして排出が18%であった。「その他」としては、「うまく腐らず畑に埋めた」、「バクテリアで処理されて残らない」といった回答が寄せられた。

(【問6】で、と回答された方にお聞きします。)

【問9】生ごみ処理容器を設置して、一般ごみを出す回数は変化しましたか。

1. 減った(週1回程度)
2. かなり減った(週2回程度)
3. ほとんど変化しなかった
4. その他 ()



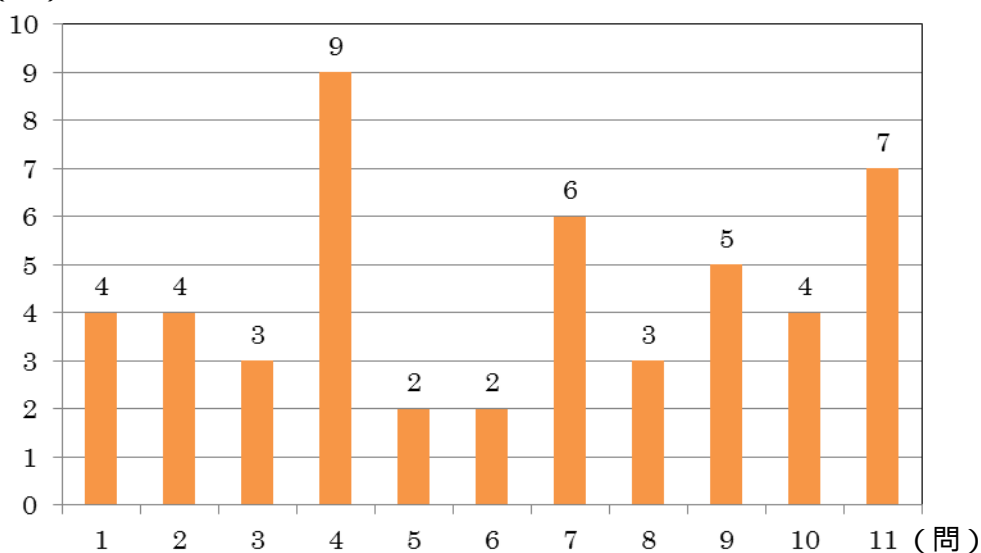
一般ごみを出す回数は、「減った」が48%、「かなり減った」が22%、「ほとんど変化しなかった」が14%、「その他」が16%であった。「その他」では、「回数は変わらないが量が減った」という回答が多く寄せられた。

(【問6】で「使用していない」と回答された方にお聞きします。)

【問10】現在、使用されていない理由は何ですか。〔複数回答可〕

1. 悪臭がした
2. 騒音(振動)がした
3. 虫が発生した
4. 故障(破損)した
5. 容量が足りない
6. 電気代がかかりすぎ
7. 処理時間がかかりすぎ
8. 投入する物の分別などが面倒
9. 処理された物の取り出しが面倒
10. 基材(チップ)の交換などが面倒
11. その他()

(件)

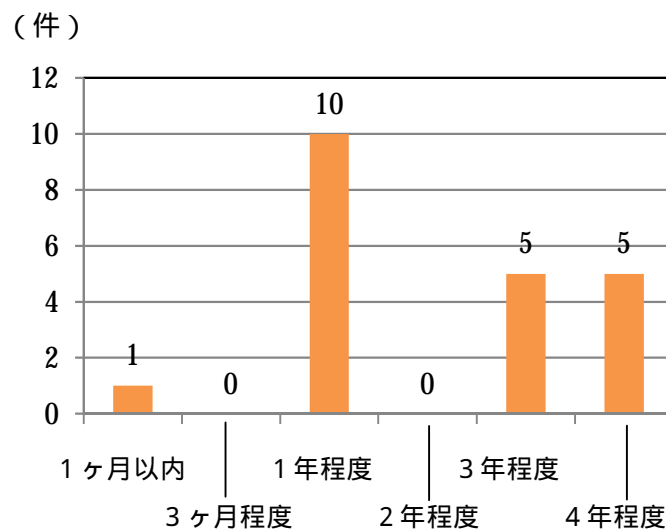


現在使用されていない理由としては、「故障(破損)」が最も多く9件であった。次いで「処理時間がかかりすぎ」が6件、「処理された物の取り出しが面倒」が5件であった。「その他」では、「家族の協力が得られない」、「畑・庭がなくなった」といった回答が寄せられた。

(【問6】で「使用していない」と回答された方にお聞きします。)

【問11】どのくらい使用されておりましたか。

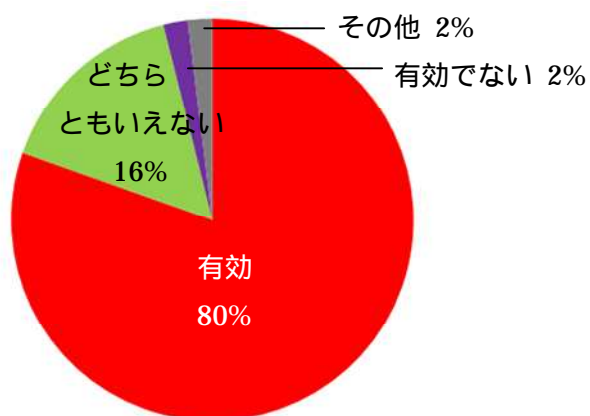
1. 1ヶ月以内
2. 3ヶ月程度
3. 1年程度
4. その他()



使用期間は1年程度が最も多く、使用を中止した利用者の47%を占めた。次いで、3、4年程度での使用中止もそれぞれ5件ずつあった。

【問 1 2】生ごみ処理容器購入助成制度は、ごみの減量化・資源化に有効だと思いますか。

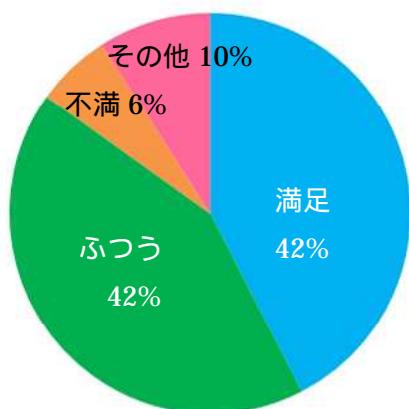
1. 有効である
2. どちらともいえない
3. 有効ではない
4. その他 ()



助成制度について、「有効である」が80%、「どちらともいえない」が16%、「有効ではない」が2%であった。「その他」では、「購入手続きが煩雑」という意見が寄せられた。

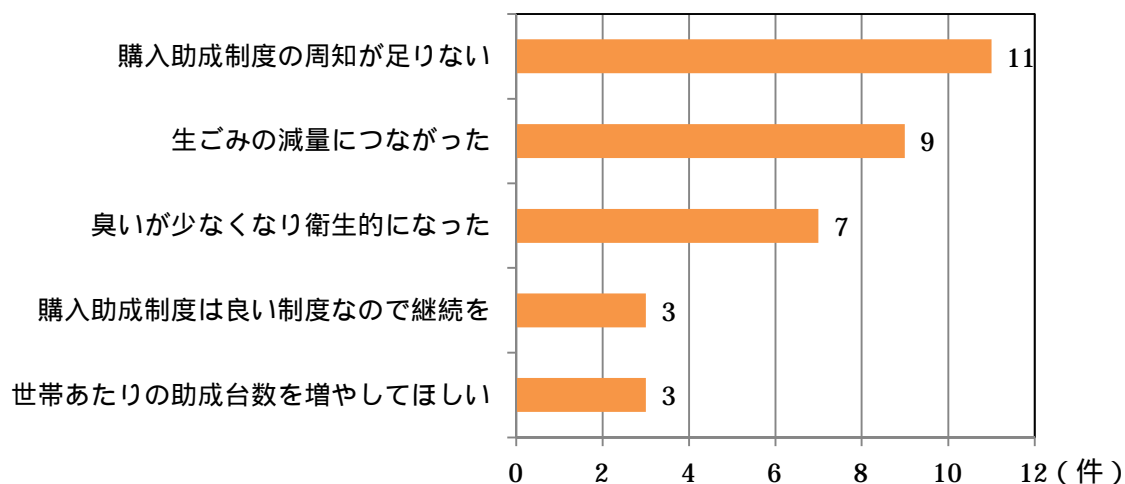
【問13】生ごみ処理容器購入助成制度の補助額について、満足されましたか。

1. 満足
2. ふつう
3. 不満
4. その他 ()



補助額については、「満足」が42%、「不満」が6%であった。「その他」では、「補助があってもランニングコストのほうが大きく、重要でない」、「容器そのものが高い」といった意見が寄せられた。

【問14】生ごみの減量化・資源化や生ごみ処理容器購入助成制度について、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。



購入助成制度については、「良い制度なので継続してほしい」、「またこの制度を利用したい」、「制度がなければ購入を躊躇する」と制度を評価する意見があった一方、「制度の周知が足りない」とする意見が多く、更なる広報・周知が必要であると推察される。

また、生ごみ処理容器の実際の使用に関しては「生ごみの減量につながった」、「臭いが少なくなり衛生的になった」といった意見が多く寄せられた一方、「マンションなど庭のない住宅では活用しづらい」といった意見もあった。

このほか、「世帯あたりの助成台数を増やしてほしい」、「肥料として利用している人の話を聞きたい」との意見や、「処理された物を市で回収してほしい」などの意見があった。